

# 駒澤大学 1 - 1 東京学芸大学



宮崎の1本のパスからチャンスを作るも、この日は惜しくもゴールには繋がらなかった



相手FWと競り合う廣井。「(DFラインの連携は)正直あまり良くなかった」と多くの課題を残したようだ

(野澤俊介撮影)

## 後半息を吹き返すも...

### 勝敗は前半次第?

「後半の終盤の攻撃が前半に出来ていればこんな結果にはならなかった」(宮崎)。駒大だけでなく前半の内容の悪さを指摘する選手が目立った。前半何本かあったチャンスは東学大GKに防がれ、30分以降はボールを支配されてシュートすら打てなかった。それからDFライン、GKの連携が悪く、**牧野**と**桑原**が連携ミスをしてあわやオウンゴールという場面を作ってしまった。

ここに一つのデータがある。前節までの18節、前半リードで折り返した試合が11試合ありそのうち10試合で勝利を飾っている。逆に前半スコアレスドローの場合は1勝1敗3分、さらにビハインドの場合は引き分けどころかすべて負けているのである。つまり駒大は前半リードを奪えないと勝てきれないチームになってしまおうことが言える。その中で前半、駒大のサッカーができてなくてリードを奪えなかったことは痛かった。後半立ち上がり46分、東学大小林のCKをフアーサイドに飛び込んだ大場に決められリードを許してしまう。直後に**赤嶺**がGKと一対一の場面を迎えるも止められ、さらに**印出**のシュートがゴールネットを揺らすもその前のトラップがハットと判定され幻のゴールに終わる。その中、東学大主将**金澤**が退場。それを皮切りに猛攻を仕掛ける。86分にPKを原が落ち着いて決め、さらに攻撃に拍車を掛ける。だが**巻**、**赤嶺**のシュートは枠をとらえることができずゴールが奪えなかった。

11月12日 12:00 西が丘サッカー場	
駒大 1 (0 - 0)	1 東学大 (10位・15)
(1位・38)	
得点者(アシスト)	
【学】46分:大場康弘(小林光一)	
【駒】86分:原 一樹(10(P.K.))	
KOMAZAWA	TOKYOGAKUGEI
GK 牧野昭(4)	GK 三澤健一(4)
DF 阿部琢久哉(3)	DF 高野耕平(2)
DF 廣井友信(3)	DF <sup>30</sup> 瀬田貴仁(2)
DF 桑原 靖(4)	DF 鈴木博之(3)
DF 筑城和人(3)	DF <sup>25</sup> 佐々木直人(3)
MF 八角剛史(2)	MF 小笠原亮(4)
MF 最上大輝(4)	MF 大場康弘(2)
(63分原 一樹(3))	MF 小林光一(4)
MF <sup>25</sup> 田谷高浩(2)	(81分 林 俊介(2))
MF 宮崎大志郎(4)	MF 金澤大将(4)
(72分 <sup>33</sup> 島田輝(1))	FW 山田将登(3)
FW 赤嶺真吾(4)	(75分 <sup>29</sup> 酒井圭祐(2))
FW <sup>24</sup> 印出昌史(4)	FW 平井英良(3)
(63分 巻 佑樹(3))	(73分 瀬田達弘(4))
S U B	S U B
GK <sup>21</sup> 三栗寛士(3)	GK <sup>31</sup> 足立 匠(2)
DF 阿部琢久哉(3)	DF <sup>38</sup> 奥野慎祐(1)
DF 塚本泰史(2)	DF 片野賢二(4)
DF 石井晃一(4)	FW 栗原康彦(2)
MF 赤尾直和(4)	
MANAGER 秋田浩一	MANAGER 檜山 康
警告(C) / 退場(S)	
【学】37分:金澤大将(C)、61分:高野耕平(C)	
70分:金澤大将(C)、70分:金澤大将(S)	
【シュート】13:6[GK]8:9[CK]10:7[PK]1:0[直接FK]15:17[間接FK]12:3[OS]2:3[主審]大塚裕[観衆]約500人	
上記データは全て左側の数字が駒澤	



「この一週間勝つために何をしなければいけないか全員で理解して一つ一つ勝つていきたい」(廣井)。この一週間でDF面、攻撃面の課題を克服してチーム一丸となって戦わなければならない。法政に勝ち点で並ばれた今、優勝するためにはもう負けることは許されない。一週間後、絶対に負けられない3試合がキックオフする。

(林 雄大)